

トノサマガセル

Mundiphaedusa ducalis (Kobelt)
異鰓目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

白山山系の加越山地、越美山地と丹生山地のブナ林帯に広く生息していたが、分布が局所的で、個体群サイズがかなり小さくなっている。

種の特徴

殻高約 35 mm、殻径約 9 mm、巻数 12 回、紡錘形でつやつやした光沢のある黄褐色。殻口は洋梨形で乳白色の滑層で覆われる。軟体部は暗褐色（アメ色）。卵生。

分 布

北陸から岐阜県にかけての白山山系と丹生山地に局所的に分布。本県内では越知山の一部の生息地は林道開発により消滅し、奥越山地にのみ生息する。

生息を脅かす要因

林道開発や森林整備等による落葉広葉樹林の伐採及び改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）、湊（1994）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○	○						○	○	○

ヤマコウラナメクジ

Nipponolimax monticola Yamaguchi & abe
異鰓目・オオコウラナメクジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息域が南条山地や奥越山地等局所的であり、個体数も極めて少ない。森林伐採等の周辺乾燥化により影響を受ける。ただし、嶺南山地の調査についてはまだ十分でない。

種の特徴

軟体はやや青味がかかった黒色で、頭部、触覚は漆黒色で光沢がある。体長 30 mm、体幅 7.5 mm、体高 9 mm。背中の楯は大きく縦 10 mm、横 6 mm もあり、その後方は著しい稜角がある。スギ植林地の湿潤な落葉下等で確認されている。

分 布

近畿以西の本州、四国に分布する。本県では、南越前町今庄高倉峠、大野市の伊勢橋周辺と仙翁谷の山地、越前町江波で確認されている。

生息を脅かす要因

乾燥に弱い種であるため、森林伐採、林道整備等による生息地の林床の乾燥化、沢の湿地の減少等が減少要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）、湊（1983a）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○							○	

オオウエキビ

Trochochlamys fraterna (Pilsbry)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

山岳地でも確認されているが、主に自然度の高い里山の落葉下で見られるが、分布が局所的で個体数も少ない。微小貝で稀産種。

種の特徴

殻高約 3 mm、殻径約 2 mm、螺層 6 層、丸味のある円錐形で淡褐色。各螺層は膨らみ縫合は深い。軟体部は淡灰色から黄褐色。山麓部のスギと広葉樹の混交林の湿潤な腐葉土が堆積した環境に生息する。

分 布

本州、四国、九州に分布する。本県内では局所的に生息が確認されている。確認地は南越前町清水、大野市和泉村大谷、大野市東市布、池田町貝皿、高浜町である。

生息を脅かす要因

林道開発や森林伐採による生息環境の改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、東（1982）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○	○	○	○			○			○	○	○